

いずみ

令和2年度 第9号
発行 2月 1日
図書館委員会
2年8組



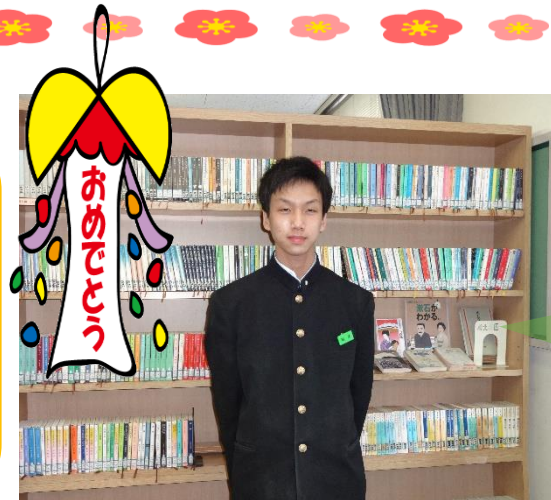
中国の古い書物に、「二月を如となす」という記述があり、二月を「如月」と言うそうですが、寒さが厳しいので衣を更に重ねて着る「衣更着」という意味もあるようです。現代では、ヒートテック下着の出現で、重ね着の必要もなくなりましたね。

寒い毎日が続いていますが、寒い朝でも、落ち着いた気持ちで朝読ができていますか。わずか10分ですが、1日の始まりの大切な時間です。日々の朝読を疎かにせず、様々なジャンルの本に挑戦してみましょう。

今読んでいる本が終わった人は、是非図書館に本を借りに来てください。

【年間多読賞の発表】

1位	206	松本 大輝さん	91冊
2位	308	三浦 義樹さん	66冊
3位	307	林 優里さん	54冊
4位	101	石川 遼さん	46冊
5位	204	山本鈴々香さん	43冊
6位	104	金本絵理香さん	38冊
7位	306	真田 拓海さん	31冊
8位	202	若林 花さん	29冊
9位	204	保坂 栞音さん	29冊
10位	304	福岡 昌三さん	28冊



【図書委員おすすめの本】

「今日は天気がいいので上司を撲殺しようと思います」 著：手塚治虫

タイトルにあるとおり、上司への憎しみが詰まった作品です。他人が必死にこなしただけの仕事で自分の手柄にしたり、明らかに一人ではできない量の仕事を押し付けたりする上司に対し、こいつの頭をグシャリと潰せたらと思う主人公。

社会の間に一足先に踏み込めるのは、高校生である今しかありません。是非手にとって読んでみてください。
(2年8組 山内 渉)

「四月になれば彼女は」 著：川村元気

美しい表紙にまず目を惹かれるこの本は、少しの悲しさと、ほっこりした優しさを感じさせてくれる恋愛小説です。大学の授業についていけなくなった藤代俊と、青森から東京に来た伊与田春の二人の出会いから別れまでの長く楽しく悲しい過去と、現在の彼女である弥生との心情が細かく描かれています。読み始めると最後までやめられなくなる本です。

(2年8組 福本 幸花)

図書館は、様々な知識が結び合う、面白い場所だと思います。図書館に来て本を借り、自分の意見と比べてみたり、幅広いジャンルの本を読んでいろいろな見方を吸収できたりすることが魅力だと思います。

是非皆さんも図書館に行って、何か本を読んでみてください。

(年間多読賞1位の松本君のコメント)

☆「私にとって、松北図書館とは」 図書館をよく利用した3年生から ☆

・今まで読んだことのない本や作家さんに出会える場。そして様々な本好きな仲間と出会える場。これまで読んでいた本が偏っており、本について語り合える相手がいなかった。しかし、高校の図書館で視野が広がり、仲間が増え、今までできなかった会話ができるようになった。読む本のジャンルの幅が広がった。よって私にとって図書館は自分の視野を広げ、様々なものと出会える場だと思う。(真田)

・夢をかなえた所。辻村先生に出会えた。朝日新聞主催のオーサービジットという活動の一環で、長年思い続けてきた辻村深月先生に講義をしていただきました。夢のような夢を、この図書館でかなえることができました。(宮城)

・自分の心を落ち着かせてくれる場所。好きな作家さんを見つけることができた。(篠原)

・一言で言うと「出会いの場」。仲の良い友人ができ、本の事やそのほかのことも語り合うことができる。自分の好きな本を見つけ、好きな作家を見つけることができる。仲間を集めて一人一人の「好き」を共有、交換し合うことのできる楽しい場所です。(三浦)

☆本の返却について☆

今年度も終わりに近づいて来ました。図書館の本の返却期間は過ぎていませんか？心当たりのある人は早めに返却に来てくださいね。

三年生への貸し出しは、一月末で終了です。ご協力よろしくお願い致します。

